

昔、中通りから会津に入るには、長沼を通る会津街道がもつとも盛んな通行道路であつた。小中街道はその支線である。

会津は酒造りが盛んで、それを造る桶の「タガ」が沢山必要なので、中通りから竹を加工して牛の背で運んだ。牛は小中村の坂を登り、頂上の広場で、背に荷物を付けたまま休んだという。それでベコツ原という名前が付けられた。またこの原は地芝居などの小屋もかけられたといわれている。

夜になると、この原に各地方の年を経た猫どもが何十匹と集まり、夜が明けるまで踊つたという。主な猫は矢田野のゴンボ猫、弥吾坂の弥吾六、白ヶ堂の白六だといわれ、そのはやしに

矢田野のゴンボ猫、来ないうちは

さつぱり調子が揃わない

しつちよいさあ しつちよいさあ

と踊つたといわれている。昭和の始めまで、盆踊りにはこの唄が歌われていた。

(話者 八木沼勝美)

笹ヶ平踊窪の由来

《小 中》

小中字笹ヶ平に、少し平なところで、土地の人が通称踊窪と呼んでいるところがある。

いつのころか、白ヶ堂のうすころばし猫と弥五坂の弥五六猫と、矢田野の権坊猫が集まり、長い間、踊りつづけたという。

ある日、矢田野の権坊猫は、踊りに来るとき、ちょうど宮本のご祝儀に通りがかり、ご馳走をわけても